

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターの平成30年度業務実績評価における評価指標等に対する分科会委員意見及び対応（案）

1 病院部門

項目	分科会委員意見	対応（案）
1	<ul style="list-style-type: none"> 治療後に QOL や自立機能がどの程度改善したのかといった、治療による効果が見られるといい。 	<p>参考値の設定を見送る。 【理由】高齢者は複数の疾患を抱えている患者が多く、入院時の健康状態も多様であることから、特定の治療による純粋な効果を見極めることが困難であるため。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者については、合併症の把握も必要。参考値としては、合併症の発症率などが考えられる。 	<p>参考値としての設定の可否について、引き続き検討する。 【理由】対象範囲の設定や定義づけ等の検討に時間を要するため。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 治療による効果が見られるといい。参考値としては、1 年生存率や再発率などが考えられる。 	<p>参考値の設定を見送る。 【理由】高齢者においては、生存率や再発率によってがん治療の効果を測ることが必ずしも適切であるとは言えないため。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 認知症は治療できるものではないため定量的指標の設定は難しいだろうが、一般的な進行に比べてどの程度進行を抑えられたのかといった診療の効果が見られるといい。 	<p>参考値の設定を見送る。 【理由】認知症は症状の個人差が大きく、一律の指標によって進行の抑制効果を測ることは困難であるため。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> 専門外来を受診したことで疾患がどの程度改善したのかといった、診療の効果が見られるといい。 	<p>参考値の設定を見送る。 【理由】高齢者は複数の疾患を抱えている患者が多く、特定の専門外来を受診したことによる純粋な効果を見極めることが困難であるため。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 保険上の在宅復帰率には介護老人保健施設に退院した場合も含まれる。保険上の数値は参考として記載しつつ、より詳細な内訳があると良いのではないか。 	<p>参考値として「在宅復帰率（保険上の数値）」を追加 【理由】現状、業務実績等報告書の提出期限までに詳細な内訳を集計することが困難であるため。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> 症例カンファレンスは、回数だけでなく扱った症例数があっても良いのではないか。 	<p>参考値として「症例カンファレンスや学習会の開催実績（回数、扱った症例数）」を追加</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> 治療に至るまでのプロセスを評価するため、「高度な医療に向けての治療法の適用と患者説明・意思決定に向けた各プロセスの確立」などと入れてみてはどうか。 	<p>治療に至るまでのプロセスの確立は、項目 4 における「高齢者医療モデル」の確立に包含されるものと整理する。</p>

2 研究部門

項目	分科会委員意見	対応（案）
10 ~11	<ul style="list-style-type: none"> 研究における目的や期待される効果、今後何にチャレンジしていくのかといったところが見えてくると良い。 また、文言として、もう少し分かりやすい言い回しを考えられると良い。 	各研究における目標等は、中期計画及び年度計画等を通して示していく。 また、正確な表現が求められる研究の性質に配慮しつつ、可能な範囲で都民にとって分かりやすい表現を用いるよう努める。
12	<ul style="list-style-type: none"> 研究においては、プロセス評価が大切である。 	プロセス評価の可否について、引き続き検討する。 【理由】研究所においては多様な研究を行っており、厳格な情報管理が必要となる場合もあることから、各研究について適切なプロセス評価が可能であるか慎重な検討を要するため。
13	<ul style="list-style-type: none"> 外部資金について、新規と既存の内訳があると良いのではないか。 	参考値に「(新規/その他の内訳)」を追加
14	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究では、倫理審査委員会の回数なども指標になりえるのではないか。 	参考値に「倫理審査委員会実施回数」を追加

3 経営部門

項目	分科会委員意見	対応（案）
16	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信について、センターのプレゼンス向上がなぜ「業務の改善と効率化」の項目にあるのか。 	中期目標において「法人事業がより一層の成果をあげるため、法人の認知度向上に向け発信力を強化し、都の高齢者医療・研究の拠点としてのプレゼンスを高めしていく。」と定めている。
17	<ul style="list-style-type: none"> 研究支援組織のような体制整備だけでなく、生命倫理や特許権に対する職員の理解促進も重要である。 	(3)の「研究倫理の徹底や不正防止に向けた取組状況」に包含されるものとする。
20	<ul style="list-style-type: none"> 項目 16 の「働きやすさに配慮した職場環境に向けた取組」との住み分けがよく分からない。整理が必要。 	項目 16 は多様で柔軟な働き方やライフ・ワーク・バランスに関する事項、項目 20 は労働安全衛生に関する事項として整理する。

4 その他、今後の取組等に対する委員意見

項目	分科会委員意見
8	<ul style="list-style-type: none"> インシデント・アクシデントレポートにおける報告の活用事例が出てくると良い。
16	<ul style="list-style-type: none"> 職員の自発的な取組は大切である。職員提案制度に限らず、職員の自発的な取組を促進し活用できる仕組みを作れると良いのではないか。 法人の自律性という点から、経営層がデータに基づき経営判断を行っているかといったマネジメント体制を見せられると良いのではないか。